

## 故評議員今岡純一郎君小傳

浦賀船渠株式會社取締役社長兼橫濱船渠株式會社取締役社長正四位勳三等工學博士今岡純一郎君昭和九年十月三日溘焉トシテ逝去セラル 行年六十一歲ナリ

君ハ岸和田岡部藩士今岡<sup>ノボル</sup>齊氏ノ長男ニシテ明治七年二月十六日ヲ以テ生ル 明治三十一年七月東京帝國大學工科大學造船科ヲ卒業シ 同年八月遞信省船舶司檢官補ニ任ゼラレタルヲ以テ君ガ官吏生活ノ第一步トス 明治三十六年十二月英獨へ留學ヲ命ゼラレ 後米國へ赴キ同三十八年六月歸朝ス 爾後累進シテ明治四十三年四月遞信省管船局船舶課長ヲ命ゼラレ 大正三年十二月高等官二等ニ陞敍セラル 大正四年二月學位令ニ依リ工學博士ノ學位ヲ授ケラル

大正六年一月橫濱船渠株式會社專務取締役ニ就任セシガ一旦之ヲ辭シ 同七年八月浦賀船渠株式會社取締役トナリ 同八年二月同社專務取締役トナリ 同十一年二月同社取締役社長ニ就任ス 昭和八年一月橫濱船渠株式會社取締役社長ヲ兼任ス

君ノ官吏時代及ビ實業方面轉出以後ヲ通シ 其ノ從事シタル各種ノ政府調査會委員 學會及公共團體ノ役員 教育關係ノ職員 實業方面諸會社ノ重役等列記スレバ實ニ枚舉ニ遑アラザル程ニシテ以テ君ノ才能ガ如何ニ卓絶セルカヲ窺フニ足ルベシ

特ニ本會ニ對シテハ昭和二年三月二十六日臨時總會ニ於テ評議員ニ當選其後三期重任セラレ今日ニ及ベリ 其間本會ニ盡ス處大ナリ

君ガ終生ヲ本邦造船事業ノ樹立ニ投ゼラレ其ノ貢獻スル處多大ナルコトハ重言ヲ俟タズ 今ヤ我國ノ實力ヲ更生スベキ此重大時期ニ際シ此有爲ナル人オヲ失ヒタルコトハ邦家ノ爲メ洵ニ痛惜ニ堪ヘザル所ナリ 茲ニ遺影ヲ掲ゲ謹ンデ哀悼ノ意ヲ表ス